



NTTドコモのビジョン

NTT DOCOMO's Vision



04 トップメッセージ

06 数字で見るNTTドコモグループ

07 特集

11 NTTドコモの企業理念

12 ドコモグループビジョン、ブランドスローガン、
ドコモグループ行動原則

13 NTTドコモグループの中期経営目標



TOP MESSAGE

長期視点の価値創造で、 豊かな社会を 未来へつなぐ

株式会社NTTドコモ
代表取締役社長

前田 義晃



価値創造の原点を、次の時代へ

2026年3月末、1999年2月のサービス開始以来、多くのお客さまにご利用いただいた「iモード」が、その役割を終えました。長年にわたり支えてくださったお客さま、パートナーのみなさまに、心から感謝申し上げます。

私自身も携わったiモードは、携帯電話からインターネットにつながる新しい体験を生み出し、コミュニケーションや暮らしを大きく変えました。テクノロジーを一人ひとりの暮らしに役立つ価値へと変え、パートナーのみなさまと新しい

市場や文化を育てる。その姿勢こそ、ドコモグループの価値創造の原点です。iモードの終了を一つの節目として、この原点を次の時代へつないでいきます。

お客さま起点で、社会課題に向き合う

その原点にあるのは、お客さま起点の姿勢です。お客さまの声に耳を傾け、お困りごとや期待に真摯に向き合うことで、その先にある地域や社会の課題が見えてきます。その解決につながる価値を生み出し、事業の成長を通じて、より大

きな価値を社会へ還元していきます。

同時に、事業が環境や社会に及ぼす影響にも真摯に向き合い、安心・安全で信頼される事業運営を徹底します。価値を生み出すことと、社会や環境への責任を果たすことを一体で進める。それが、ドコモグループのサステナビリティであり、持続的な成長の土台です。

この考えのもと、2026年5月に発表した中期経営目標では、「データ基盤」[AI]、そしてAI時代を支える次世代インフラを成長の軸に据えました。通信品質の改善と、災害時にもつながる強靱なネットワークづくりを進め、社会インフラ



トップメッセージ

数字で見るNTTドコモグループ

特集

NTTドコモの企業理念

ドコモグループビジョン

ブランドスローガン

ドコモグループ行動原則

NTTドコモグループの中期経営目標

としての使命を果たし続けます。そのうえで、AIとデータを活用し、一人ひとりに合ったサービスや、社会課題の解決につながるソリューションを提供していきます。

ここで重要なのは、技術を使うこと自体ではなく、それによってどのような価値を届けるかです。AIやデータを安心・安全かつ責任ある形で活用し、新たな価値を生み出していきます。

また、金融・決済は、スマートライフ事業や法人事業とともに、ドコモグループの成長を支える重点領域です。通信と同じく日々の暮らしに密接にかかわり、高い安全性と信頼性が求められます。2026年7月には、株式会社NTTドコモ・フィナンシャルグループが事業を開始しました。グループ各社の強みを生かし、わかりやすく利便性の高いサービスを提供することで、「やさしい金融を、みんなの手に。」という想いを形にしていきます。



□ NTTドコモ・フィナンシャルグループ

未来につなぐ

事業を通じた価値創造を将来にわたって続けるため、地球環境への取組みを一層強化していきます。気候変動への対応では、温室効果ガス排出量について、自社で2030年までにカーボンニュートラルを、サプライチェーン全体で2040年までにネットゼロをめざします。

資源循環では、1998年から「ドコモ ケータイリサイクル」を継続しています。長年にわたる携帯電話の回収・再資源化などの取組みが評価され、2026年3月には「第34回地球環境大賞 総務大臣賞」を受賞しました。



(写真提供 産業経済新聞社)

今後も携帯電話の回収・再資源化を着実に進めるとともに、製品の調達から利用、回収、再資源化まで、ライフサイクル全体で資源を有効に活用していきます。お取引先やパートナーのみなさまとも連携し、サプライチェーン全体で環境負荷の低減を進めます。

また、少子高齢化や生産年齢人口の減少が進む日本社会の

持続的な発展には、将来世代への支援も不可欠です。

テクノロジー、とりわけAIが急速に進化するなか、誰もが安心してデジタルを利用し、その恩恵を受けられる環境を整えることが重要です。未来を担う子どもたちの学びや体験の機会を広げ、テクノロジーを人と地域の可能性を広げる力として届けていきます。

こうした取組みの根底にあるのは、「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」という私たちの企業理念です。

人と人、人と社会をつなぎ、新たな価値を生み出すという理念のもと、私たちは責任あるサービスの提供を通じて社会の変化に向き合い、よりよい社会を次の世代へ引き継ぐ役割を果たしていきます。

環境負荷の低減や将来世代への支援を確かな成果につなげるため、ステークホルダーのみなさまとの対話を重ね、めざす社会の姿を共有していきます。いただいた声を事業運営に生かし、サプライチェーン全体の持続可能性と社会の豊かさの向上に貢献していきます。

これからも、目の前の成果だけにとらわれず、10年後、20年後の社会を見据えながら、一つひとつの取組みを着実に進めていきます。そして、通信を核とする多様な事業を通じて、テクノロジーと人間力を掛け合わせ、新しい感動と豊かさを生み出し、その価値を未来へつないでいきます。

(2026年9月)



数字で見るNTTドコモグループ(2025年度実績)

NTTドコモグループは、テクノロジーと人間力で、通信事業基盤の強化と、新たな価値創造の推進に取り組んでいます。

コンシューマ事業

- 個人向け通信サービス(5G・LTE等携帯電話サービス、光ブロードバンドサービス、国際サービス)
- 各サービスの端末機器販売 など

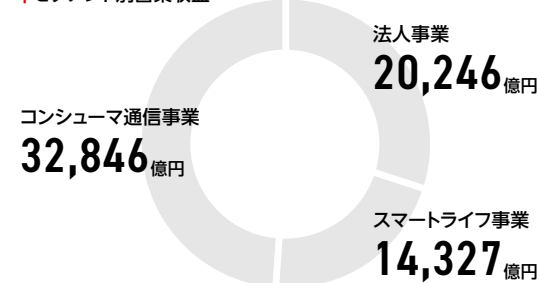
スマートライフ事業

- 金融決済サービス
- マーケティングソリューション
- コンテンツライフスタイルサービス(動画・音楽・電子書籍等配信サービス・電気・ガスなど)
- あんしん系サポート(ケータイ補償サービスなど) など

法人事業

- 法人向け通信サービス(5G・LTE等携帯電話サービス、ユビキタスサービス、衛星電話サービス、光ブロードバンドサービス、国際サービス)
- 各サービスの端末機器販売
- オフィスリンク など

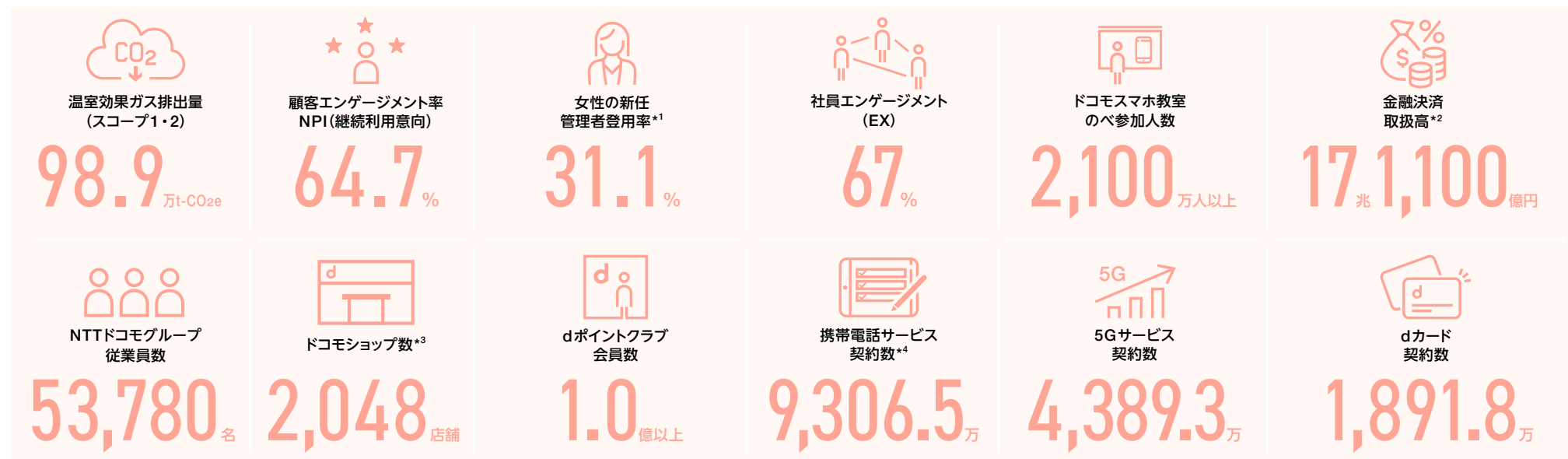
セグメント別営業収益



営業収益
64,581 億円

営業利益
9,421 億円

□ グループ各社



*1 女性の新任管理者登用率 対象範囲：ドコモ、ドコモビジネス、機能分担子会社11社

*2 金融決済取扱高：dカード、iD、d払い、ダイレクトキャリアビリング、ドコモ払いなどの取扱高の延べ金額

*3 ドコモショップ数：2026年7月時点

*4 携帯電話サービス契約数：MVNOとの契約および通信モジュールサービス契約を含む

□ 財務・業績



環境リーディングカンパニーへ向けた取組み

ドコモ GREEN アクション

NTTドコモは、脱炭素社会の実現、循環型社会の実現、生物多様性・生態系の保全の3つの柱を重要な経営課題と捉え、「ドコモGREENアクション」として取組みを推進しています。便利な未来も、豊かな自然も、どちらも大切にしたいから。NTTドコモは、よりよい地球のあしたのために、テクノロジーと人間力で価値を創造し、人と自然が寄り添って暮らせる未来につないでいきます。

[□ ドコモGREENアクション](#)

脱炭素社会の実現

2030年カーボンニュートラルおよび2040年ネットゼロの実現に向け、再生可能エネルギーの調達を進めています。

オフサイトPPA(太陽光・バイオマス)

同一エリア内の遠隔地にある太陽光やバイオマス発電所から電力を長期的に調達しています。非化石証書を組み合わせ通信ビルの実質再エネ比率100%を達成しました。また、エネルギーの地産地消や地域の林業活性化に貢献しています。



アワリーマッチング

電力消費と再エネ発電を1時間単位で一致させる手法であり、24時間365日カーボンフリー電力の実現に向けた重要な取組みです。太陽光とバイオマス電源を組み合わせた実証では、時間単位での需給一致を確認し、より精緻で透明性の高い脱炭素の実現をめざしています。

循環型社会の実現

資源の有効利用と廃棄物削減を通じて、サーキュラーエコノミーの実現をめざしています。

第34回地球環境大賞

1998年に開始した「ドコモ ケータイリサイクル」は、携帯電話の回収や再資源化を推進しています。長年の活動が評価され、「総務大臣賞」を受賞しました。

いのち球

大阪・関西万博では、ケータイリサイクル由来の資源が新たなモニュメント「いのち球」に活用され、資源循環と生物多様性を象徴する芸術作品として生まれ変わりました。現在は、万博記念公園(大阪府)に移設されています。



万博記念公園に移設された「いのち球」

回収品を活用した商品づくり

SIMカード枠をリサイクル、利活用したスマホケース「エコハードケース」を発売。新規原料で製造した場合と比べ温室効果ガス排出量を20%*削減しています。



「エコハードケース」

*原材料調達から廃棄・リサイクルまでを対象に算定し、温室効果ガス排出削減量の算定結果は、株式会社サステナビリティ会計事務所より第三者保証を取得しています

生物多様性・生態系の保全

2025年発表の『生物多様性中期ロードマップ』に基づき、地域と連携した生物多様性保全活動を推進しています。

自然共生サイト認定

2025年に岐阜県・高知県のドコモの森2か所が新たに自然共生サイトに認定され、認定済みの大阪府を含め計3か所に拡大しました。各地では地域のステークホルダーや専門家と連携し、自然豊かな環境と、そこに生息するさまざまな生き物・生態系を守る活動を実施しています。

ドコモの森+ Local nature

これまで長年取組んできたドコモの森から、地域固有のフィールドへ活動範囲を広げ、お客さま・地域のみなさま・社員の連携による「みんなでまもる」活動、ICT活用などによる健全な森の育成や環境教育を通じた「未来へつなぐ」活動など、“つながる”取組みを推進しています。



ドコモ土岐の森(岐阜県)



ドコモ四国 土佐・いのちの森(高知県)



特集 | こども応援

ドコモ未来プロジェクトの取組み

NTTドコモは、子どもたちが明日にワクワクできる社会の実現をめざして、子どもを応援する取組みを推進しています。

2025年度には、より一層子どもたちへの価値提供を推進するために、全社の子ども向けサービス・取組みを「ドコモ未来プロジェクト」に統合し、ブランドサイトをオープンしました。



「ドコモ未来プロジェクト」は、ドコモの「テクノロジー」と「つなぐ力」で、子どもの「あんしん・安全」を守り、自分の「好き」を見つけ、「未来」につなげていくことを目的とした、子どもの人生を応援するプロジェクトです。未来を担う子どもたちの成長を支えることが社会的責任であるとの考えのもと、「ドコモ未来プロジェクト」を立ち上げました。デジタル化の進展により求められる能力が多様化する一方、子どもたちが夢や目標を描く機会や体験の格差といった課題が顕在化しています。こうした状況に対し、ドコモは長年培ってきた技術やネットワーク、地域とのつながりを活かし、あんしん・安全の提供に加え、ワクワクする体験や自由な発想を表現できる場を創出します。子ども一人ひとりの可能性を引き出し、主体的に未来を切り拓く力の育成に貢献していきます。

[📄 ドコモ未来プロジェクト](#)

「あんしん・安全」を届ける取組み事例

スマホ・ネット安全教室

子どもたちの育成に主眼を置いた学校向けオンラインプログラムです。情報を活用して積極的に社会に参画していく能力を養えるよう、対象別に6種類のカリキュラムを用意しており、全国の学校にて受講していただいています。プログラムは子どもたちのネットやスマホの使い方に関するトレンドや社会の動きを反映したものに定期的に更新しています。



● 2004年7月から22年間の累計 (2026年3月末現在)

開催回数：約110,700回、受講人数：約1,730万名

※前身の「スマホ・ケータイ安全教室」を含む

子どもたちの「好きを見つける」取組みの事例

スマホ分解チャレンジ！

全国から使わなくなったものとして回収されたスマートフォンを実際に工具を使って分解し、部品の分別などを通じて、リサイクルとは何かを学ぶ体験プログラムです。地球環境を守るためのリサイクルへの理解やものづくりへの興味を深めます。地域のこどもの居場所などでも実施しました。



● 2025年度の開催実績

開催回数：9回、参加人数：246名

「未来をつくる」取組みの事例

ドコモ未来フィールド

スポーツや文化、エンターテインメントなど多様な「プロのセカイ」を子どもたちが体験できる機会を創出しています。Jリーグクラブやファッションショーなどのパートナーと連携し、本物の世界にふれる体験を通じて、子ども一人ひとりが大切な学びや将来の夢を見つけ、主体的に未来を切り拓く力を育むことをめざしています。



● これまでの開催実績 (2023年6月～2026年6月)

企画数：47 (北海道から九州エリアまで全国各地で開催)

応募総数：約27,100名、参加人数：約1,300名



特集 | 地域応援

ドコモ地元応援プロジェクトの取組み

NTTドコモグループはお客さま、地域の関係者、社員が協働し、地域課題に寄り添い、新たな価値創出と持続可能な地域社会の実現をめざす地域を応援する取組みを推進しています。2025年度には、各地で実施している地域特色のある取組みを発信するドコモ地元応援プロジェクトのブランドサイトをオープンしました。



NTTドコモは、全国に広がる事業基盤と地域とのつながりを背景に、地域社会が抱える人口減少や産業衰退などの課題解決に貢献するため、「ドコモ地元応援プロジェクト」を立ち上げました。地元への一人ひとりの想いを起点に、テクノロジーと人間力で人と人、地域と未来を“つなぐ”ことをめざしています。お客さま、地域の関係者、社員が協働し、地域の子ども向けの体験型活動や環境保全活動、寄付など多様な手法を通じて地域課題に寄り添い、新たな価値創出と持続可能な地域社会の実現に取り組んでいます。

[📄 ドコモ地元応援プロジェクト](#)

テゲバジャーロ宮崎との連携を軸とした地域の若者・子どもたちの応援

宮崎支店

宮崎県を拠点とするJリーグクラブ「テゲバジャーロ宮崎」との連携を軸に、地域の子ども・若者の活躍を応援する取組みを推進しています。小学生から大学生までの各世代に対し、ICTを活用した体験機会提供や金融リテラシー教育、キャリア支援など多様で切れ目のない学びの機会を提供するとともに、課題解決型インターンなど実践的な活動を展開しています。地域企業・大学と連携し、若者が地元で成長し活躍できる環境づくりを通じて、持続可能な地域社会の形成に貢献しています。



サッカー試合会場での体験機会提供の様子
(宮崎大学インターン生3名参加)

- ・小学生：試合会場でのICT体験機会提供 (embot、デジタルアート)
- ・高校生：金融リテラシー教育 (キャッシュレス学園祭)
- ・大学生：課題解決インターン (宮崎大学の単位認定講座と連携し、クラブホームゲームイベントの企画・運営)

● 2025年度の実績

機会創出回数：3回、参加人数 (若者・子ども)：101名

自治体・学校・警察との連携を軸とした地域の子ども応援、森林保全活動

愛媛支店

自治体や学校、警察と連携し、地域の子どもが安全・安心に暮らせる社会実現に向けた取組みを推進しています。小中学校へのSNS安全教室や防災に関する授業の実施に加え、ICTを活用した体験機会の提供にも取り組みました。

環境保全活動では、今治市林野火災支援活動 (募金活動) のほか、希少生物保護に向けた「防鹿ネットの設置」や「基地局への巣箱設置」など生物多様性保護活動に取り組んでいます。



中学校でのSNS安全利用教室の様子



防鹿ネット設置の様子



基地局への巣箱設置の様子

● 2025年度の実績 (小中学校での授業)

授業回数：延べ17回、参加人数 (児童・生徒)：約1,600名



特集 | 社員参加

NTTドコモグループ全社員でサステナビリティに取り組む

NTTドコモグループは、サステナビリティ経営の推進のためには、社員全員の理解浸透や実践が重要であると捉えています。

事業を通じた社会課題解決のあり方を全社員が理解し、実践できるよう、社員に向けたさまざまな働きかけを実施しています。

サステナアンバサダーを起点とした社員意識醸成施策

社員の自発的な活動を促進するサステナアンバサダー施策を2021年度から推進しています。2025年度は、従来の環境分野中心の活動をサステナビリティ全般へ拡大し、さまざまな社会課題の解決に関心を持つ社員が主体的に参画できる仕組みへと発展させました。手挙げ制で募るアンバサダー登録者数は、2024年度から約500名増加し、約1,500名規模へ拡大しています。活動内容は、企業やNPOとの交流を通じて社会課題を学ぶセミナーや体験プログラム、社員同士のディスカッションなど多岐にわたります。2025年度には、他社社員との対話を通じて社会課題への理解を深める交流プログラムやNPOとの共創による体験型セミナーのほか、子どもの居場所での体験プログラム運営支援など、社会貢献の観点だけでなく、事業における実践を重視しています。



富士通様との交流プログラムの様子



こどもの居場所での体験プログラムの様子

● 2025年度の実績

サステナアンバサダー登録者数：1,447名（ドコモグループ）

サステナ意識醸成施策実施回数：21回

社外ダブルワークによる社外パートナーとの協働

社員一人ひとりのサステナビリティ意識の向上と実践力の強化を目的に、NPOや地域団体などで活動する「社外ダブルワーク」を推進しています。社員が自身の業務時間の最大2割を使って、子ども支援や地域活性化、環境保全などの社会課題の現場に参画することで、地域や生活者の視点を深く理解し、新たな気づきや学びを得る機会を創出しています。

2025年度は、湘南ベルマーレフットサルクラブや放課後NPOアフタースクールなど15団体へ、自ら応募した46名の社員を約半年間派遣しました。こうした経験を通じて培われた知見や共感、事業を通じた社会課題解決や新たな価値創出につながります。実際に派遣された社員からは「現場の声に直接触れることで、社会課題をより具体的に捉えられるようになった」「異なる業界の方々との協働を通じて、社会価値と事業価値を両立するヒントを得ることができた」といった声が挙がっています。これからも、地域やパートナーとともに挑戦する実践の場を広げることで、サステナビリティを自分ごととして捉え行動する人材の育成を進めていきます。



湘南ベルマーレフットサルクラブ
ホームゲームでの運営の様子



放課後NPOアフタースクール
スタッフミーティングの様子



NTTドコモの企業理念

私たちは「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」に向けて、個人の能力を最大限に生かし、お客さまに心から満足していただける、よりパーソナルなコミュニケーションの確立をめざします。

■新しいコミュニケーション文化の世界

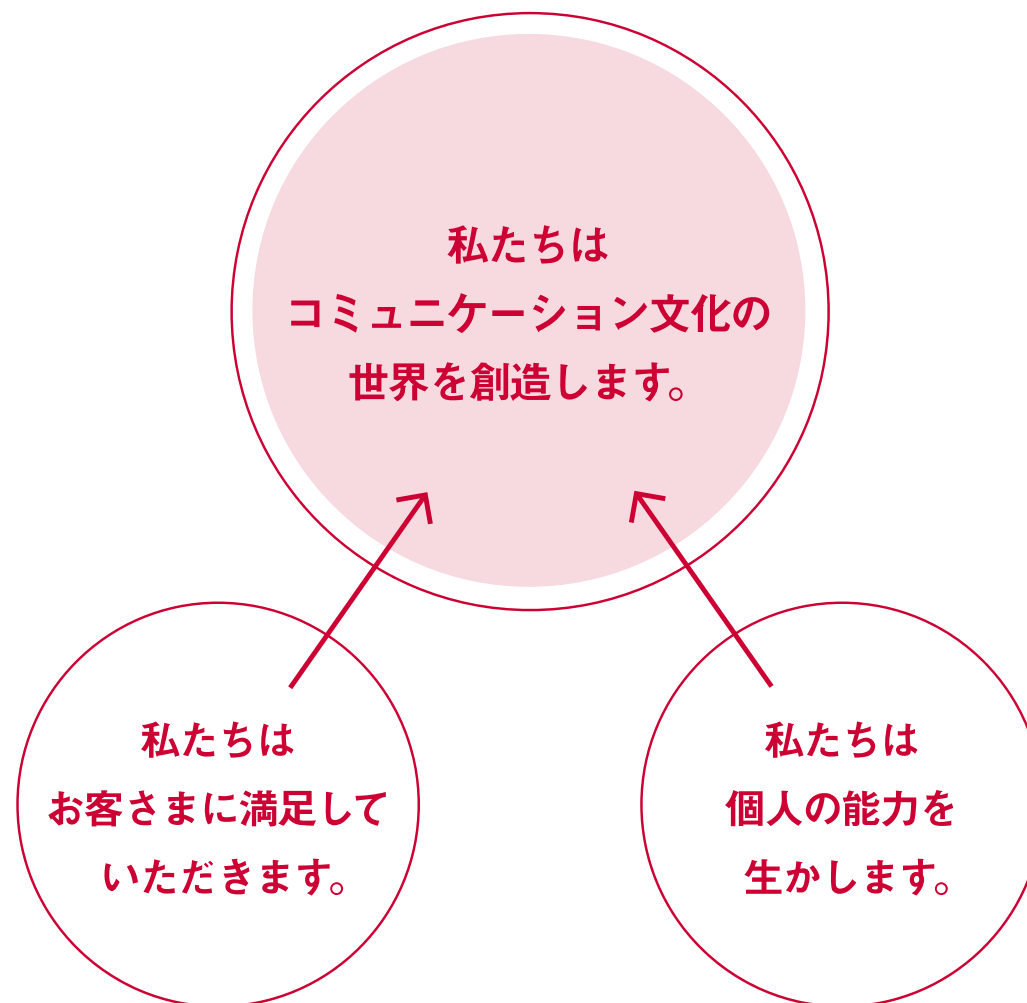
より新しい、より豊かなコミュニケーション文化の世界を実現させるため、私たちはサービス品質の改善をはかり、人にやさしい高度なヒューマンインターフェースをめざした技術開発や、より多彩なサービスの企画開発を積極的に進めるとともに、より広いエリアでサービスを提供していきます。

■お客さまの満足

私たちは、まずお客さまへの対応を充実させ、サービス品質の改善や独自ネットワークの構築、機能の充実、サービスエリアの拡充をはかります。さらには、より充実したサービスを低廉な料金で提供することにより、さまざまなお客さまの満足にお応えしていきます。

■個人の能力を生かす

人材育成制度を充実し、人事育成一体化を推進することにより、個々の能力活用をはかるとともに、環境・労働条件の向上、福利厚生充実など、働きがいのある職場づくりを行っていきます。



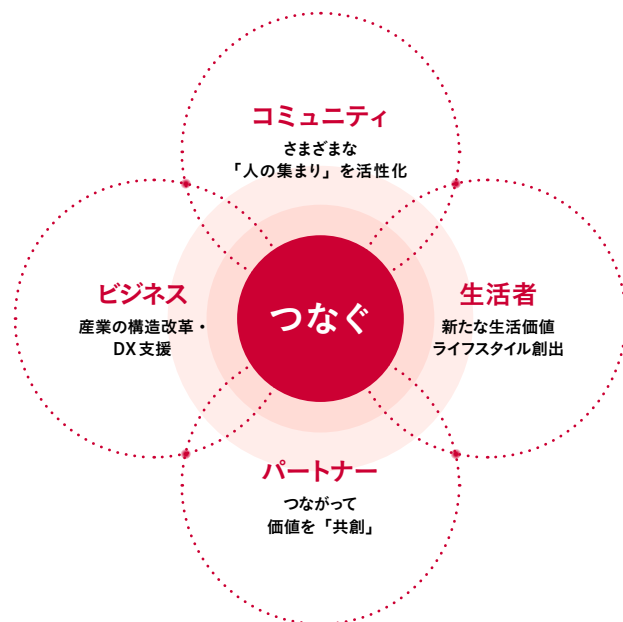


ドコモグループビジョン

ドコモグループがどのように新しい価値を生み出していくのかを表現したのが「グループビジョン」です。

ドコモグループには多様な事業領域があります。私たちは「つなぐ」を価値創造の源泉として、それぞれの事業の強みをつなぎ、掛け合わせることで、パートナーのみなさまとともに新しい価値を生み出し、さまざまなお客さまやコミュニティに届けていきます。

テクノロジーと人間力で
新しいつながりを生み、心踊る価値創造で、
世界を豊かに、幸せに。



ブランドスローガン

ドコモグループは、「つなぐ」を価値創造の源泉として、お客さまやパートナーとともに新たな価値を創出し、驚きと幸せに満ちた社会の実現をめざしています。その想いを表現したのが、ブランドスローガン「つなごう。驚きを。幸せを。」です。

つなごう。驚きを。幸せを。



NTTドコモグループ

[□ NTTドコモグループブランディングサイト](#)

ドコモグループ行動原則

ドコモグループがどのように新しい価値を生み出していくのか。そのためにグループ社員一人ひとりが今でも心に持っている熱い想いを、考えるだけでなく、行動する。やってみるだけではなく、やりきる。「つなごう。驚きを。幸せを。」の実現に向けた行動原則です。

グループ社員として持つべき責任感

つなぎきる

常に社会の利益を考え、
誠実に真摯に「つなぐ」をやりきる

「お客さま起点の事業運営」を行うために

当事者意識

目の前の仕事だけでなく
“ドコモグループの仕事”すべての当事者になる

リスペクト

パートナーや仲間と共に学び尊重しあい、
お客さまの期待を超えていく

チャレンジ

お客さまの喜ぶ顔を想像しながら
新しい価値創造への挑戦を止めない



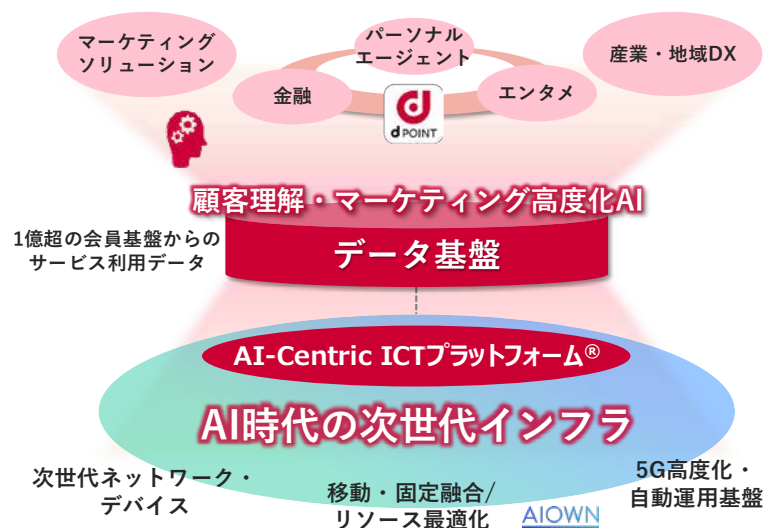
NTTドコモグループの中期経営目標

NTTドコモは、2026年5月にNTTドコモグループの中期経営目標を発表しました。

中期的な成長に向けて

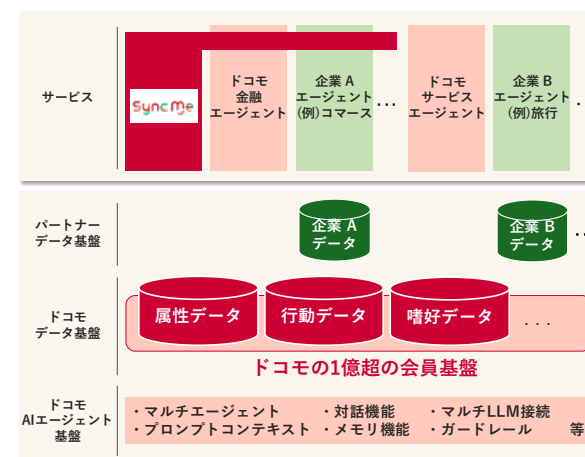
中期的な成長の軸となるのは、「データ基盤」と「AI」、そしてAI時代を支える次世代インフラです。1億超の会員基盤から得られるデータとAIを掛け合わせ、新たな価値創造につなげていきます。

さらに、通信基盤についても、AI時代を支える次世代インフラへ進化させていき、このインフラ上で、サービスを通じて顧客接点を広げ、データとAIによって価値へ転換し、その価値をパートナーとともに社会へ広げていきます。



お客さまへの新たな価値提供 - AIエージェントプラットフォーム

「SyncMe」は、通信、金融、エンターテインメントなど、あらゆる接点から得られるデータを統合し、お客さま一人ひとりに最適な体験を先回りして提供する次世代エージェント型サービスです。これまでドコモが蓄積してきた行動データを活用することで、使い始めた段階からお客さまを理解しており、そして、使えば使うほど理解が深まり、さらに便利になっていく、好循環を実現していきます。また、SyncMe向けに構築してきた基盤を、他のサービスやパートナーにも展開可能なAIエージェントプラットフォームへと進化させていきます。これにより、パートナー企業のエージェント同士の連携や、データ連携を通じて、サービスをさらに高度化していきます。



AI時代の次世代インフラ - AI-Centric ICTプラットフォーム®

法人事業では、NaaSを軸としたAI-Centric ICTプラットフォームを、さらに進化させていきます。AI時代に必要となるAIネイティブインフラと、AIソリューションをトータルで提供できる強みを活かし、自動運転、ロボティクス、エネルギーマネジメントなど、産業・地域課題の解決に取り組んでいきます。また、AI需要拡大に合わせてデータセンター提供も拡大して



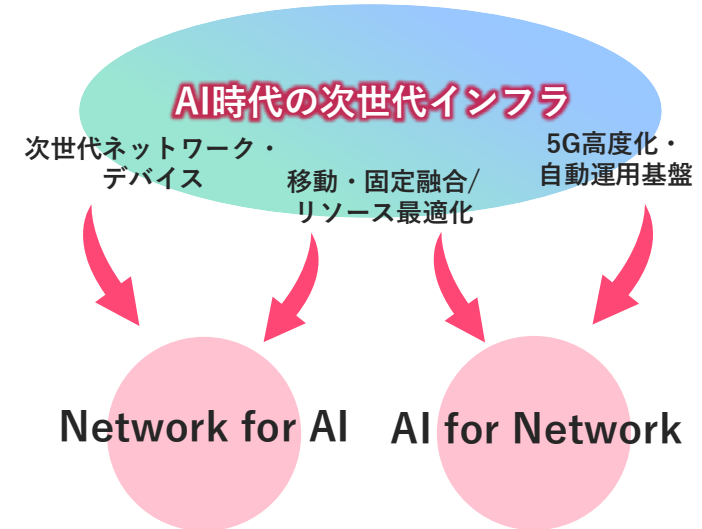
いきます。分散配置されたデータセンターやサーバー間を、NaaSやIOWN APNで接続するなど、インフラ基盤強化にも取組んでいきます。



AI時代の次世代インフラ - ネットワーク

AIの進展に伴い、AI時代に適した次世代インフラが必要になります。ドコモは、AIを“支える”[Network for AI] と、AIを“活用する”[AI for Network] の両輪で取組んでいきます。「Network for AI」では、自動運転やロボティクスなどで増加するトラフィックや超低遅延ニーズに対応し、次世代AIサービスを支えるインフラ需要を取り込んでいきます。また、「AI for Network」では、AIを活用したネットワークの自律運用により、運用効率化と品質向上を実現していきます。

こうしたAI×ネットワークの進化により、持続的な利益成長と生産性向上につなげていきます。



中期財務目標

2030年度の中期財務目標として、スマートライフ・法人事業収益 5兆円、EBITDA 2兆円、ROIC 11.4%（金融事業を除く）を掲げています。

これらの達成に向け、事業を推進していきます。

